

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100024		
法人名	社会福祉法人 ひかりの里		
事業所名	グループホーム めだかの学校 悠ゆう		
所在地	山梨県甲府市武田2丁目8-17		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内に「小規模多機能型居宅介護」が併設されている。  
 同法人内の児童養護施設が近くにあり、日々の生活の中で子供の姿や声を聞く生活があり、児童と一緒に昼食を共にしたり買い物や外出・料理を作る機会も多くあります。  
 職員と少人数での個別に外出したり、近くにある同法人内のグループホーム入居者との交流も盛んで、外出や日々の散歩を一緒にしたり、料理を作る機会も多くあります。  
 民家を改修した施設で階段もあり、一般家庭の雰囲気があります。また、階段を使う生活なので生活の中でのリハビリが行えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人ひかりの里グループの中にある施設で医療機関や児童養護施設を備え「老幼一体」となり幅広い運営をしている。身近に医師、看護師がおり、利用者の健康面や相談など迅速な対応ができる。児童養護施設の子供たちが訪問し買い物や散歩に行き孫たちと遊ぶような和やかな交流を深めている。職員が本人の力を活かして生活する自立支援に努め常に人生の先輩と敬意惜みない介助をしている。食事前に口腔体操や軽い運動を取り入れ嚥下防止や食欲増進に繋げている。地域の商店での買い物、床屋、美容院を利用して人間関係作りにも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームめだかの学校悠ゆう

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その方の生きてきた生活や過程を理解し、尊厳を大切に、安心して笑顔で過ごせるよう理念を共有しケアにあたっている。	バックアセスメントを理解した上で笑顔で楽しい暮らしと自立支援を理念にしている。利用者に来る事はなるべく本人が出来るように焦らずのんびりと支援している。玄関やフロアに理念を掲示し職員は常に確認して理念と行動を共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には声をかけてもらい、積極的に参加している。年1度の地区文化祭には合唱発表や作品展示にて参加している。地域の商店や美容室を利用したり、日々の挨拶等で声をかけあう、運営推進会議などを通して意見交流に努めている。	利用者は近所の理・美容院を利用している。散歩の時に買い物をしたり挨拶や会話で近所の方の理解も深まりつつある。コンサートの招待があり参加して身近に歌を聞き楽しんだ。地区の文化祭にみんなで作った貼り絵の作品を出展した。地域の一員として、いろいろな地域会議にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の認知症教室に参加したり、町内会の集まりに参加して、機会毎に話をさせてもらっている。相談に立ち寄られる方や道での立ち話時に話かけてもらうこともあり、随時対応している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてサービスの状況等について報告し、感想・意見を述べてもらっている。会議での要望や意見は職員会議等で報告し、今後のサービスに活かせるよう努力している。	2ヶ月に1度、運営推進会議を行い状況報告をしている。家族からの提案で砂利道を歩きやすくコンクリートにして車椅子もスムーズに動き便利になった。活発な意見交換で家族間の繋がりを深められ、有意義な会議を開催している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を取り合うと共に、困ったことや疑問点があった場合は市役所へ行ったり、電話したりし、相談にのってもらっている。	介護保険制度の変更などで解からない点は気軽に電話で相談している。住所変更や各種の申請方法など行政担当者は快く対応してくれる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解するよう職員研修会や職員会議を利用し、定期的に指導している。また、日々に業務の中での何気ない声かけ等にも拘束が潜んでいる事を周知徹底している。拘束によるケアは決して良い方向には進まないことの職員の理解を更に進めていきたい。	身体拘束もなく夜間以外は施錠してない。スピーチロックは実践現場の中で気づいた時に職員間で注意し合っている。年1回、研修会を行い職員のレベルアップに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳を大事にし、身体への暴力だけが虐待ではなく、職員言葉かけや対応も虐待につながることを注意として促している。入浴時や健康チェック時、体調の変調に注意し気づくことの大切さも指導している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から制度について相談をされたり、制度を利用している入居者もいるが職員全体の周知まで至っていない。学ぶ機会を設けて活かしていきたい。個々の必要性に応じて本人・家族に適切に導入してもらう事や支援していくことが今後の課題である。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と密に連絡を取り合い、不安な点や疑問点について納得・理解してもらうまで対応している。利用開始後においても、疑問点や不安な点も出てくると思うので、その都度対応するようしている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営会議において、家族からあがった意見・要望は、職員会議や日々の業務の中で職員に伝え、改善に取り組んでいる。 意見・要望は、運営に反映し、面会時や運営推進会議において報告している。	家族の希望や要望は面会の時や電話で聞いており、運営推進会議に家族から出された意見・要望等は検討してなるべく反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で職員の意見や要望等を聞くように心がけている。また、個別に聞く機会も設けるように時間を取るようにも心がけている。	直接利用者に接している職員は何を求めているか気持ちを察している。行事の提案等、職員の意見を聞き参考にして業務に取り入れ実践で活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	休み希望や職員の勤務可能な条件等も考慮し勤務表を作成している。 能力ややる気に応じた昇給も行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年5回の内部研修会や月1回の職員研修会を行い知識や技術の向上に努めている。職員が講師を務めるため、相互の勉強の場にもなっている。 外部の研修にも参加出来る様に周知し学んだことを報告してもらい、職員間の勉強に役立てている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にいくつか施設があるので、交流・研修は積極的に行っている。他施設との相互訪問も行っており情報交換やサービス向上に努めている。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に可能な限り、自宅や施設に訪問し顔合わせをしている。 また、家族や身近の方に接し方や生活について聞き、入居後、顔を合わせた時に安心してもらえるよう、声かけをや対応に心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と密に連絡を取り合い、困っている事・不安に思っている事に耳を傾け状況を理解し、安心してサービスを利用できるように心がけている。また、家族の思いを受け止め、助言や支援に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を聞き、その方の望んでいる支援を広い視野を持ち適切なサービスが受けられる様、また、誤解や不安を招かないよう話し合う機会を持つよう心がけている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を楽しんでいる	家庭的な雰囲気の中、自身で出来ることはできる限りしてもらい時には娘・息子のようにお互い叱咤激励するような、和やかな関係作りができています。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や本人にしかわからない思いもあるため、その関係性を壊さないよう少しでも共有させていただき支えていけたら思っている。また苦しき時こそ話してもらえ一緒に考え力になれるようになっていきたい。そのためにも、信頼関係を築き話せる関係になれるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から話を聞き、今まで住んでいた地域に出掛けたり、知人の方や親戚の方にも可能な限り電話や面会に来てもらえるようお願いしている。	入所契約の時、家族から認知症の原因と状況を聞き参考にしている。友人や姉妹の面会があった時は家族に電話で報告をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気や大事にし、皆で和気あいあいと話したり、入居者同士で慰めあったりしている光景がある。職員は見守りながら孤立する方がいないよう話しの輪に入れる支援を心がけ、皆が楽しく過ごせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所に伴い契約解除になった後も、必要に応じて家族と連絡を取り合い、困ることのない様相談にのり支援している。		
<b>Ⅲ. その</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人と話しを聞く機会を日々の生活のなかで見つけている。また、本人の意向がはっきり聞けない場合は家族に協力してもらったり、行動や何気ない会話の中から見つけ出すよう心がけ、本人らしく楽しく過ごせるよう考え支援している。	女性の利用者の場合、自分の使い慣れたエプロンを身につけると「ふと、我にかえる」時がある。料理の手伝いや洗濯物をたたんでいる時に塞がった心が開き小さな声が聞こえてくるなど、何気ない会話でも聞き逃さず利用者に寄り添い支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から若い時の話などを聞く機会を設ける様にしている。困難な場合は、家族から可能な限り話しを聞き、把握に努めている。また、面会の知人や親戚の方にも失礼のない範囲でお聞きしている。話すことを拒否することもあるのでその際はあえて触れない配慮もしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活習慣を大事にし、一日の過ごし方を把握するように努めている。職員同士、日々気づいた事や情報を共有しその人の持っている力を奪わず維持し生活していける様心がけている。まずは、出来ないではなく、やっていただくことから始めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の処遇会議で話し合い検討している。日々の生活の中で気づいた事や要望に対して職員がチームとして話し共有し、介護計画に反映出来る様心がけている。	毎月1回、処遇会議をしている。利用者の自立にむけて計画を作成している。利用者の状況に応じて職員同士で話し合い介護計画を作成する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアについて記録に残し、気づいた事柄は申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有している。日々変わることなので随時、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変の柔軟な対応を心がけているが、既存のサービス規則に縛られてしまい、ニーズに応えられないことや対応し難い現状もある。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として把握している部分もあるが、入居施設という中で資源活用が難しい場合もある。また、掘り出しきれていない地域資源もあると思うので、広い視野をもち、安心・安全に暮らせるよう支援していきたい。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族・本人よりかかりつけ医を聞いている。家族の協力を得ながら受診をしている。また、必要に応じて主治医に情報提供を行い、一緒に受診に付き添うなどし、主治医と面識を持ち関係づくりに努めている。	家族の同意で職員が付き添い受診する事が多い。家族の対応時には利用者の状況を記録したケアノートを医師に渡し、受診内容を記入してもらうなど情報提供を共有している。法人のクリニック主治医の協力で利用者の健康管理に務めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員には、気づきを心がけてもらっており、気づいた事は管理者・看護師に随時、相談・報告し家族と話し合い、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、情報提供を行なっている。入院中は連絡を取り合い、退院時にはいつでも対応できるように相談させてもらっている。また、退院後の生活が無理なく送れるよう指導してもらおうようお願いをしている。馴染みのある病院との関係作りが容易だが他の病院との関係性にはまだ難しい一面がある。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢ということもあり、先のことも考え入所時から本人・家族と意向や希望を話し合うようにしている。家族が誤解せず、理解し受け止めて下さるよう話し合う機会を時折もうけ時間をかけ取り組んでいる。また、家族から相談を受けることもあるので、常に対応出来る様心がけている。	入居時に本人、家族と管理者で終末期医療の対処について相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修において職員が講師となり、緊急時の対応・連絡体制を研修している。また、最低でも年1回救急法を日赤講師を招き、指導を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年数回、外出行事を利用し、避難訓練を行っている。また、職員研修でも起震車や消火器体験も取り入れている。大震災があったこともあり、備蓄の見直しも視野に入れ取り組んでいる。また、運営推進会議等を通じ、地域の方に協力を要請し体制を整えている。	年3回、避難訓練を兼ねて外出(ドライブ)している。地域の防災訓練に参加して職員は消火器の使い方等を訓練している。スプリンクラーを設置し、避難誘導等や地域の方の協力もお願いすることを検討している。	震災時、特に高齢者の避難方法が課題となっている。消防署と協議して災害時に対応する訓練を計画・実践することを期待する。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の念を忘れず、一人ひとりの尊厳を大事にし、プライドや人格を傷つけないよう声かけに配慮している。会議や日々業務の中で理念に触れ、徹底を図っている。	家族が面会に来た時、この施設に入りたいと思えるような施設づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に話す機会を設けたり、問いかけるような声かけを行い本人が思いが言えるような環境作りに努めている。職員にも、聞く姿勢を持ち意向を聞くよう努めるようにしてもらっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人にあつた支援をするよう心がけているが、時間や都合でペースに合わせられない状況もあるので、工夫や代わりに出来ることを考えながら対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれやお化粧品に興味をもてる会話を取り入れながら、今まで使っていた化粧品を持って来てもらいおしゃれをする事を忘れないよう支援している。定期的に美容カットをしてもらっている。希望によっては美容室へ行きパーマや髪染め・カットをしに出かけている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みが反映出来る様要望を聞いたりし、職員に伝え対応している。生活歴を活かし、毎食ごと準備から配膳・片づけを一緒にしている。「私がするわ」と率先して下さる方もいるため配慮しつつ役割分担してもらった場合もある。	利用者の誕生日には好物をメニューに取り入れている。料理の色合いや品数、利用者各自の箸や湯呑みを使用するなど工夫している。食前には口腔体操をしたり、配膳を職員と利用者と一緒にこなすなど食事を楽しむことのできるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や病気を考慮し日々の状態を記録し、職員間で申し送りながら情報を共有しその時々に応じた対応をしている。食べる量や水分が足りない時は家族と相談しながら、補助的な食品を足すなど支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人その人に合わせた口腔ケアを行っている。夜間は義歯は洗浄剤につける等し清潔に心がけている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し対応している。状況を把握出来る限り、紙パンツは利用しない対応に切り替えている。	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、さりげなく誘導している。便秘になりやすい利用者はなるべく繊維のある野菜を多めに取り下剤を減らすようにしている。紙パンツは出来る限り使用をしないで自立支援に務めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンをチェックしたり、早めの対応が出来るよう心がけている。毎朝冷たい牛乳を飲んでいただくようになってから、薬を飲まなくても排泄につながる方が増えてきている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	なるべく本人の希望に合わせて入浴出来るよう心がけている。体調や希望に合わせて無理強いはいしない支援をしていくよう努めている。入浴を拒む方には、声かけに工夫するよう心がけている。	週3回入浴日がある。体調や希望に応じて無理強いしないので声かけをしたり、足湯にて対応するなど工夫している。体調管理チェック表をつけ不衛生にならないように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの様子に気を配り、自分から言えない方もいるため、声かけに配慮している。夜間においては、早く寝ることを無理強いしないよう心がけ、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに服薬の説明書を綴ってあり職員が理解しておくようにしている。変動があった場合は申し送りノートによって情報を共有し、気づいた事は記録に残すと共に職員間で伝えていくようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びが持てるような生活を心がけているが、一人ひとりへの対応に戸惑う職員や関わりがうまく持てないことも垣間見えている。まだ、職員全体での工夫が必要である。気分転換においては、近くに法人施設があり利用者の状況も共有しているので遊びに行くことをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や近隣施設への行き来は日々行っている。普段行けない場所への外出については家族にお願いしたり、外レクという形で可能な場所には行くよう支援している。また、どこまでが可能な支援かが把握できていない部分もあるので、今後の検討課題でもある。	祭り、コンサート、買い物、散歩など日常的に外出の支援をしている。また、法人のバスを使って外出をする時もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物等で職員が付き添う事により自分で品物を選び料金を支払い、楽しめるよう支援している。個人で財布を持っている方もいるので、そこから購入することも支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に電話をして下さる家族もいる。その際は、一緒に寄り添い本人が電話が出来るよう支援している。手紙を書くことが苦手な方もいて最初からあきらめているので一緒に行えるよう心がけ支援していく。家族からの手紙などは一緒に読んだり、部屋に飾るなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手作り品を飾ったりし手作りの空間づくりに工夫をしている。限られた空間ではあるが、家庭的な雰囲気づくりに努めている。民家なので、和風ののれん等で工夫し季節ごとにのれんも変えるなどしたり季節の飾りに変えたりと心がけている。	玄関にはクリスマスリースが飾られている。フロアは利用者の手作り品を飾ったり、のれんを掛ける等心和む空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間であるため、一人になれる場が少ないのが現状だが、希望や状況により、職員と居室で話したり、ひとりで居室にいるなど対応を工夫している。対応面でまだやれること、工夫が必要なこともあるので、職員間で話し合い対応していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を持ってきてもらったり、家族との写真を飾るなどし、自室であることを認識でき、居心地の良い空間を作れるよう工夫している。紙パンツなどは、人目にわからないように置くなどしている。	部屋の入り口には和紙で掛け軸風に作った名札がある。壁には家族の写真が飾られ、人形や手紙置かれているなど利用者が居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られた空間であることで、職員の目が届きやすく身体機能を把握しやすい。狭さゆえの利点を活かし車椅子に頼らず、椅子などを頼りに歩こうとする意欲にも繋がっている。階段も逆転発想で日常生活のリハビリとして活用している。		